御寺泉涌寺（みてらせんにゅうじ）

三聖地巡拝錬成で最後に訪れる聖地が、「御寺泉涌寺」です。

御寺泉涌寺は鎌倉時代に月輪大師・俊芿によって京都の東山の地に創建されました。第八十四代四条天皇以降、幕末の孝明天皇までの御歴代天皇の御葬礼は泉涌寺で行われてきました。また境内には、四条天皇をはじめ御歴代天皇の御陵（お墓）を含めた「月輪御陵」と、天智天皇以降の御歴代天皇をはじめ御皇族の御尊碑（お位碑）などが祀られた「霊明殿」があります。こうしたことから日本で唯一の「御皇室の菩提寺」として、〝御寺〟という尊称を受けています。

では、なぜ「御皇室の菩提寺」に私たちが参拝させていただくのでしょう。

天皇陛下は国民一人ひとりを「大御宝」として、わが子のように慈しみ、幸せを願ってくださっています。その願いは「国民が一つ屋根の下に住む家族のように仲良く暮らす」との理想を掲げ、日本の国を建国された神武天皇より一二六代を数える今上天皇まで変わりません。建国の初めより日本の国は、天皇陛下を「親」として国民が「子」となる、まさに大きな家族であるといえます。

現に、これまでも日本国内で災害などが起こった際、天皇陛下は直に被災地へと足を運ばれ、被災された方の痛みに寄り添ってこられました。

今年元日に発生した能登半島地震では、震災直後から心を傷められながらも、被災地の負担を考えて訪問時期を調整されました。三月の訪問時も、滞在中の食事を持参されるなど細やかな配慮をなされた上、被災者に励ましの言葉をかけ、災害対応に尽力する関係者を労われたといいます。

どんな時も国民のことを一番に考え、その真心を一貫して行動に示される天皇陛下は、まさに日本の伝統精神「与えて求めない太陽の心」の実践者です。その深く大きな愛情を無条件に与えてくださる「親」がいてくださる有り難さを考えた時、「子」である私たちが御寺泉涌寺で皇祖皇霊に感謝を捧げることは、至極当たり前のことなのです。

御寺泉涌寺を参拝する際には、国民の幸福を祈り続けて来られた皇祖皇霊に対して、心から崇敬の念を捧げると共に、天皇陛下のお姿を手本として、私たちも立派な日本人となることをお誓いさせていただきましょう。

◎天皇陛下のお姿を手本として、自分はどんなことができるかを考えてみましょう。